

【小学生の居場所づくりと活動充実】

子どもの居場所を時間帯別にみると、放課後の時間帯においても、土日においても、家族・親族と一緒に過ごしている児童が多い。

身近な地域で子ども同士の交流の場として望む場は「子どもが放課後などに集って、子ども同士で自主活動などができる場」「子どもが土日に活動できたり遊べる場」がそれぞれ約 60%となっている。また、子どもの地域活動やグループ活動への参加状況は「参加したことがある」が 70.3%となっている。

子どもを参加させたあるいは参加させたい地域活動やグループ活動の種類では「スポーツ活動」「子ども会等の青少年団体活動」などが上位となっている。

子どもがよく利用する公共施設は「公園」が最も多く 58.8%、次いで「図書館」が 39.1%、「体育施設」が 38.0%などとなっている。また「児童館」は 17.4%であり、児童館を利用しない理由では「利用したいが、近くにないので利用できない」が最も多く 49.0%となっている。

【小児医療の充実と利用の普及】

就学前、小学生とも小児救急医療機関の必要を感じたことが「ある」が約 90%となっており、その時の対処方法では「休日急患診療所へ連れて行った」が最も多くなっているが、一方で「翌日まで様子を見た」などに「休日急患診療所を知らなかったから」「どうすればよいかわからなかったから」を理由とする回答が一定数ある。

【相談対応の充実】

子育てに関する悩みの相談相手は、就学前、小学生ともに「配偶者・パートナー」「その他の親族（親、きょうだいなど）」「近所の人、地域の人、友人」など生活周辺に求めている。その反面、専門相談を提供している施設等を相談相手とする回答はほとんどない。利用しやすい専門相談の提供が課題として考えられる。

【情報提供の充実】

子育てに関する情報の入手方法についても、就学前、小学生ともに生活周辺から得ているとともに、「子育て雑誌・育児書」「テレビ、ラジオ、新聞」などマスメディアを通じて入手している。「市役所や市の機関」は少ない。一方では、家庭や地域の子育て支援力が維持されていると捉えられるが、他方、マスメディアによる情報過多の時代において、公的な情報提供が果たすべき役割を検討していく必要がある。

⑦行政への希望

【窓口対応の充実】

出産・育児に関する行政窓口対応への不満について、「ある」が20～30%となっている。不満の理由としては、とりわけ「対応が不親切」が60～70%と最も多い。

【子育て支援の充実への期待】

就学前では、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が最も多く73.0%、次いで「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減してほしい」が69.4%、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が62.5%などとなっている。

小学生では、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が最も多く57.5%、次いで「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が55.4%、「親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会が欲しい」が38.3%などとなっている。

■母子保健事業に係る統計

■各種健診等実施状況

	母子健康手帳 交付	妊婦健診※		4か月児健康診断		
		実人員*	延人数	回数	受診者数	受診率%
平成13年度	905	991	1,716	42	829	97.5
平成14年度	809	927	1,599	42	849	98.0
平成15年度	862	898	1,550	42	788	97.5
平成16年度	876	947	1,630	42	804	98.4
平成17年度	811	922	1,571	39	806	96.9

	10か月児健康診断			一歳半児健康診断		
	回数	受診者数	受診率%	回数	受診者数	受診率%
平成13年度	42	801	96.2	34	807	95.4
平成14年度	42	851	96.8	34	832	98.2
平成15年度	42	810	96.9	37	810	96.1
平成16年度	42	758	98.1	36	808	98.1
平成17年度	39	805	95.5	32	755	96.7

	3歳児健康診断※			不妊治療費 助成交付	パパママ学級	
	回数	受診者数	受診率%		回数	参加者数
平成13年度	34	812	96.0	0	15	356
平成14年度	33	847	95.7	0	15	410
平成15年度	37	781	94.3	33	16	355
平成16年度	36	747	92.9	93	16	259
平成17年度	32	798	95.2	99	14	259

	離乳教室		むし歯予防教室		母子健康相談	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	延人員
平成13年度	39	229	32	837	161	1,758
平成14年度	36	224	32	769	161	2,774
平成15年度	36	203	37	779	153	2,718
平成16年度	36	225	36	753	146	3,358
平成17年度	32	222	34	770	161	4,171

	母子訪問指導		絵本読み聞かせ事業※※	
	実人員*	延人員	回数	参加者数
平成13年度	1,058	1,326	0	0
平成14年度	944	1,178	0	0
平成15年度	1,039	1,319	24	718
平成16年度	846	1,138	35	832
平成17年度	921	1,209	31	826

※平成9年度に委譲

資料：健康推進室

※※平成15年度より4か月健診時に実施

*実人員に旧夜久野町の数値は含まれていない。

■部会による視察・ヒアリング調査結果のまとめ

第1グループ（部会長：足立 喜代美）

9月9日（木）午前10時から

「おひさまひろば」の視察

ネットワーク（ボランティアスタッフ）が中心となり運営されている「おひさまひろば」の実施状況を、六人部地域公民館において視察。当日の内容は、消防・救急学習会で人工呼吸や消火器の使用方法の実施であり、参加者は親子合わせて約230人と多かった。

子育てサークルに参加している人が、ボランティアとして運営しておられ参加者のニーズを取り入れながら年間11回の行事を実施されている。その中に子育て学習会や交流会も取り入れている。

第2グループ（部会長：野波 洋）

10月7日（木）午後1時から

綾部中筋幼稚園の視察

保育園と幼稚園を一体化し、幼稚園として運営を開始されている。幼稚園の発足により、幼稚園の減少傾向が食い止められたが、保育料や運営費等の課題が指摘された。

遷喬小学校校庭開放事業の視察

午後1時から午後5時まで放課後の児童を校庭や体育館で見守っている事業で、指導員は2人。普段に通っている学校であり、子どもたちは安心して生き生きと遊んでいた。

トトロの家の視察

遷喬小学校の前で、民間により運営されている学童保育施設である。共働きの家庭に学童保育は必要であることから、公的な制度等も検討すべきである。



前田児童館放課後児童クラブの視察

火曜日から土曜日までの午後1時から7時まで、休暇中は午前10時から午後7時まで実施されている。基本的に1年生から3年生までが対象である。



第3グループ（部会長：塩見 芳朗）

企業の従業員との意見交換

9月29日（水）午後1時30分から

保育サービスの充実や出産や育児等に要する経費が高いことが指摘され、児童手当等の給付の増額や教育費の軽減が求められた。近くに親等がいて育児への協力が得られるなど、比較的子育て環境に恵まれた方々であった。

企業経営者との意見交換

11月12日（金）午後7時から

少子化に関して、労働力については外国人労働者の受け入れることで対応すればよいとお考えであった。また、育児休業については「制度としては理解できるが、現実の運用は中小企業では厳しい」実態をうかがった。

ホッと福知山 子育て夢プラン

～子どもと心通わせ 喜びあふれるまち～

福知山市次世代育成支援行動計画

平成19年3月

発行：福知山市 保健福祉部 子育て支援課

電話：0773-24-7066 FAX：0773-24-9073

e-mail：fukushi@city.fukuchiyama.kyoto.jp